

学位請求論文要旨

泉鏡花研究——中国文学受容を中心に

二〇二二年一二月

城西国際大学大学院

人文科学研究科比較文化専攻

于達

本研究は先行研究を踏まえ、泉鏡花と中国文学との関係を作家研究と作品研究の両面から考察するものである。鏡花と中国文学との関わりや鏡花文学における中国文学受容について考察した上で、各時代における鏡花の中国文学受容の様相や特徴を、具体的な作品に即した典拠の解明や対照分析を通して論じた。鏡花の中国文学受容は、明治二十年代から三十年代にかけて、主として中国文学からの素材を作品の一部として摂取していたが、明治四十年代頃から大正十年代頃にはわたって、中国文学、特に中国の志怪小説をはじめとした怪異文学に対する翻案を集中的に行っていた。しかも、明治早期の中国文学受容とそれ以降の受容のあり方、明治四十年代頃の翻案と大正十年代の翻案のあり方には、取材においても、翻案の手法においても際立って相違が見られる。以下、各章において、どのような問題を取り上げるかについて説明していく。

序章では、鏡花が中国の古典文学を愛読していたこと、漢籍蔵書が大変豊富であったこと、自ら中国文学の翻案を行ったこと、近世文学における中国文学の翻案物を高く評価していたことという四つの面から中国文学に親炙していたことについて論証し、本研究に取り掛かる背景を明らかにした。次いで、鏡花文学と中国文学との関係を論じた諸先行研究を概観し、論文の構成、目的及び研究方法を提示した。

前の二章は、作家研究的に鏡花と中国文学との関係を考察するものである。第一章では、鏡花と中国文学との関係、特に鏡花の漢学的素養を中心に考察した。第一節では、時代背景を視野に入れながら、幼年時代の家庭や学校における教育、青年時代から周辺にいる友人や師の尾崎紅葉からの影響などについて調査した。鏡花は幼少期から家庭内で四書五経に触れ、学校に入っても当時の学校教育の一環としての漢文教育を受けた。一方、草双紙類を介して中国の志怪小説などの古典文学に対する認識を深め、この近世文学嗜好は後の鏡花の漢籍読書趣向や翻案創作にも大きく影響を及ぼした。青年期には、師の尾崎紅葉の読書趣味や、笹川臨風をはじめ中国文学に造詣が深い友人からの学識から吸収するところが多かったと考えられる。第二節では、長谷川覺が記した「泉鏡花蔵書目録」に基づき、鏡花の漢籍蔵書について調査し、鏡花蔵書における漢籍、中国文学に関係する日本文学などを精査した。鏡花蔵書に中国文学が相当な比重を占めている。周知の李長吉、「李杜」、王昌齡、岑参といった辺塞詩人の詩集や詩論書などを幅広く所有し

ていことから、漢詩に多大な関心を持っていたことが分かった。なかでもとりわけ目を惹くのはその志怪小説好尚である。こちらの漢籍や中国文学に関わる和製類書などは鏡花の創作の材源となり、特にその翻案創作に端的に反映されているのである。

第二章では、鏡花文学に見られる中国文学受容や受容の背景を中心に検討した。鏡花文学における中国文学受容は様々な様相を呈しており、原典に対するアレンジの多様性が見られる。第一節では、鏡花文学における中国文学受容の起点について検討し、中国文学受容の分類と翻案作品の範囲を明らかにした上で、鏡花の中国文学受容作品を〈取材〉と〈翻案〉に分類してまとめ、後の第三章から第五章の考察基盤を整えた。第二節では、以上の考察に基づき、鏡花の中国文学受容、特に翻案作品が明治三十年代後期から盛んに創作されていたことについて、当時の時代背景、鏡花の生活状況、文壇の動向などを視野に入れて総合的に考察した。明治三十年代後期から鏡花の作家人生にとって一つの転換期・模索期を迎え、中国文学受容は鏡花がそれを切り抜けるための一つの試みであると理解できる。

第三章では、明治早期の「琵琶伝」と「白羽箭」という二つの作品を考察対象として、鏡花の早期創作に見る中国文学取材について論じた。第一節では、「琵琶伝」の典拠として、『新語園』にある三つの鸚鵡の話を取り上げて検証した上で、本作における「鸚鵡」のモチーフを中国の漢詩と関連付けて検討した。「琵琶伝」は『新語園』における鸚鵡の物語から素材や構想を摂取しつつ、その背景には漢詩に脈々と詠まれてきた悲劇的な女性のイメージもあると思われる。第二節では、明治三十六年の「白羽箭」を俎上に置き、作品中の漢詩的要素を中心に論述した。題に使われている「白羽箭」は摩利支天に奉納する神矢であると同時に、戦争の残酷さを象徴する武器であるという一面を、李白の「北風行」などの漢詩に対する考察を通して究明した。更に、「白羽箭」に三度も引用された漢詩「塞下曲」の内容に即し、作品分析をした。作品を貫くこの詩が小説の歴史的基盤となる会津戦争の史実、物語の展開、主人公の心境の変化などと大きく関わっていることについて検証した。以上の両作に対する考察を通して、鏡花の早期中国文学受容は作品全体に対する翻案ではなく、主として部分的な取材であることが分かった。

第四章と第五章は、鏡花の明治期と大正期の中国文学翻案を対象に考察したものである。第四

章では、明治時代後期の翻案作品の「知つたふり」「かしこき女」「妙齡」「画裡」を取り上げ、作品の原典の解明や作品の成立、翻案の態度と手法などについて具体的な対照分析をした。「知つたふり」論では、冒頭で示されている三つの原典について検証し、「陽羨書生」の話は『続齊諧記』、「梵志吐壺」の話は『法苑珠林』、「スカリーヤ王の話」は『全世界一大奇書』にそれぞれ素材を求めたことを検証した。「かしこき女」論では、『法苑珠林』巻七十五における「婦與琢銀児相通諭」のほか、作品中に挿入される『韓非子』「李季浴矢」の話も新たな典拠として挙げた。その上で、「李季浴矢」の話の役割、「閨門の鉄条網」の表現について論述したが、タイトル通り、能動的に婚姻の「鉄条網」を破り、危機から身を守るような女性が「かしこき女」と見なされる一方、妻を私有物として閉じ込めるような男は結局騙される愚か者とする鏡花の批判が読み取れる。「妙齡」論では、将来夫人として手に入れるため、国王が三歳の幼女を過酷な環境に幽閉している内容から、女の子を「完璧」な「秘蔵」される女として解読した。その中に明治時代になつてはじめて現れた「良妻賢母」の表現から良妻賢母思想への批判、男女の自由の恋愛を唱えるような主張が表出されている。第四節は、鏡花の早期の中国文学翻作品に見る「芸」に対する見方を、中国文学に言及した紀行、評論なども参考しつつ検討した。その上で、画師が自由に絵の中の幻想世界と現実世界を出入りすることを題材にした翻案作品の「画の裡」を取り上げ、原典と対照しながら、鏡花の芸道観・怪異観について論じた。

第五章では、大正時代における三つの翻案作品「十三娘」「雨ばけ」「光籃」について考察した。第一節では、「十三娘」を原典の「老人化猿」、「老人化猿」の典拠と見なされる「越女論劍」の話と照らし合わせて典拠分析をした。「十三娘」は「老人化猿」の話を軸にしつつも、その原典である『呉越春秋』の「越女論劍」の話も参照し、そこに描かれた越女の剣術観を吸収し、新たな女剣侠伝を描き出している。更に、以上の素材に日本固有の庚申信仰や厩猿信仰も巧妙に絡ませつつ、猿が化した老翁が十三娘の道を遮ることが合理化されると同時に、話は多元的な興趣を呈するようになった。第二節の「雨ばけ」の場合は二つの典拠作品を交錯的に絡ませ、原作になり「缺釣瓶」の設定、「白菌」から「黄茸」へ、驢馬から「青牛」への改変などで、巧みに素材を統括している。また、鏡花は話の中に日本の釣瓶落とし伝承、自身の経歴と深く関わっている雨

に対する詩想などを織り込み、新たな一篇に仕上げたと思われる。第三節で取り扱った「光籃」も利用する典故が一つの材料に満足せず、中国文学や日本の民俗芸能からの素材を複合的に生かしている。中国の月伝説として、「桂林韓生」の話の構想を骨子とし、その上に、「鄭仁本表弟」にある「玉斧修月」の伝説や「楊隱之」、「王先生」の話における月の形を整える幻想譚も摂取している。以上の素材を大正時代に流行っていた日本の民俗芸能の安来節に託しながら、お盆に行われる「川施餓鬼」や「流れ灌頂」という供養儀式も吸収しているので、本作に至っては、典故の痕跡はすっかり薄まっているのである。

最後に、本研究で究明したことを改めてまとめるとともに、本研究の限界と今後の課題を提示した。

このように、泉鏡花という作家について考える際に、中国文学からの影響は看過できない要素である。作家生涯の発期である明治二十年代後期から、近世文学を介して中国文学からの素材を生かした創作や漢詩を借用して自分の思想を託す操作が見られるだけでなく、明治四十年代頃から大正時代にかけて発表した一連の翻案作品は時期によって顕著に翻案の度合いや手法が異なり、作家としての成長や創作に見られる変貌が見受けられる。明治時代の翻案は利用する素材が単一の場合が多く、「秘蔵」される女から「姦通」する女への転化というテーマへの執着が強かったのに対し、大正時代になると、こうした題材に対する拘りは見られなくなり、多様な怪異素材に目を向けるようになった。しかも、日本の風土、芸能、民俗的要素を巧みに翻案に融合させ、翻案手法は原話を文学化しようとする創作意欲が強くなったと見受けられる。大正期の鏡花翻案は次第に翻案という枠組みから脱出し、ある構想に基づき、多種多様な材料に対する取捨選択や綯交ぜを行い、新たな作品を作り上げようとする意識が強いのである。

鏡花の中国文学受容作品は必ずしも鏡花文学の中で代表的なものとは言えないが、明治二十年代から三十年以上わたった創作行為として見る場合、決して等閑視できないことである。